



ひすい

糸魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 5月号 (No.3)

令和2年5月22日発行

知っていますか？

「わひわひ ひろば」のこと



「ひすいの里総合学校」と「糸魚川小学校」の児童生徒玄関を入ると右横の階段ところに「わひわひひろば」があります。「わひわひ ひろば、って何？」と誰しも思うはずです。一言で言えば、両校の子どもたちの作品等を紹介し合う交流スペースです。

今は、糸魚川小学校、ひすいの里総合学校の子どもたちが思いを込めて制作した図工・美術作品やメッセージカード等が展示・掲示されています。紙粘土や木材を使った創造力溢れる造形作品、文化祭の作品や音楽発表会の鑑賞活動を通しての感想カードです。「私のお気に入りの作品は〇〇。明るい色がすてき。」「ひすいのみんなの発表は、ダンスがあつてとても楽しそうだった。」など、互いのよさを認め合う感想が書かれています。

Q. ところで、「わひわひ」のネーミングはどこから来たの？

A. 確かに、意味不明です。文字からの浮かぶイメージは「???」です。種明かしすると、糸魚川小学校「わかばっこ」、ひすいの里総合学校「ひすいっこ」の頭文字をとって「わ」「ひ」、それを繰り返した「わひわひ」なのです。「わかばっこ・ひすいっこ」が相互に関わり合い、交流を深めていってほしいという願いのこもった名前なのです。

Q. なるほど、分かりました。でも、「わ・ひ・わ・ひ」の響きはいただけませんね。

A. 確かに、「わひわひ」は、何となく「うひうひ」を連想させ、意地悪っぽく感じます。でも、「わひわひ」と書いて「わいわい」と読む。歴史的仮名遣いで「ひ」は「い」と読むので、「わいわいひろば」と言っています。「わいわい」は、「わかばっこ・ひすいっこ」の声飛び交う賑やかで楽しい様子を表しているのです。

「ひすいの里総合学校」と「糸魚川小学校」は同じ校舎で、障がいの有無にかかわらず、共に学び一緒に学校生活を送ることを通して、互いを理解し認め合うインクルーシブ教育を実践し、共生社会実現の基盤を作ることを目標にしています。「わひわひ ひろば」は、その具現された一つの形です。オープンスクールや学習参観日などの折に、少し時間をとってご覧いただければありがたいと思います。両校の子どもたちとの素敵な出会いがあります。



春を感じながら…

例年であれば、5月のお便りでは運動会に向けて元気一杯に活動している子どもたちを紹介するのですが、それが叶いません。新型コロナウイルス感染防止のために運動会は実施しないことになり、1年後に先送りとなったためです。いつも「ある」ものが無くなると、どこことなく喪失感を覚えます。

子どもたちは、運動会の有無にかかわらず、毎日楽しく学習活動を行っています。屈託のない子どもたちの様子から元気をもらっているのは周りの大人達かもしれません。

<<小学部>>

「屋根より高い鯉のぼり～！」ひすいの多目的室にもたくさんの鯉のぼりが泳いでいます。絵の具の模様がポイントのカラフル鯉です。みんな違ってみんないい。同じものは一つとしてありません。

図工「季節の飾り」で制作した作品です。子どもたちが今の時季に目にする「鯉のぼり」を題材としています。

紙と紙の間に絵の具を挟み、再び開いて偶発的な模様を得る技法を使ったものです。「どんな模様になるかな？」子どもたちは「ドキドキ！ワクワク！」でした。模様を作り、絵の具を乾かし、尾ひれをはさみで切ったり目玉をのりで貼ったりして完成です。

それにしても、職員のアイデアはすごい。鯉のぼりの作り方、そして、一人一人の作品を一つに集めて泳がせて、共同作品に仕上げるとは。



<<中学部>>

「春耕・now！」中学部の生徒は、連休明けの5月7日、五月晴れのもとで畑の耕し、畝づくり、草取りなどの作業に汗を流しました。

始めに、作業内容の確認をすると、それぞれが自分の仕事に取り組みました。鍬を使い、土を耕して畝を作るのは2・3年生です。昨年、経験をしているせいか、鍬の使い方は堂に入ったものです。きれいなかまぼこ形の畝が形作られていく様子に、さすが中学部生徒と感心しました。

生徒もそうですが、指導する職員も農業に関する技能や知識をもち合わせていなければなりません。オールラウンダーな職員に感謝です。

さて、作業学習は、その活動自体が目的ではなく、活動を通して働く力の基盤を作ることがねらいです。自分の仕事に集中して活動すること、他者と協力すること、最後まで責任を果たす体力と気力を養うことなど、将来を見据えた複数年をかけての学びです。「継続は力なり！」

「索引」使えます！

昼休みに、小学部の児童が校長室に図鑑をもってやってきました。「マンガース」を紹介するためです。机に置いた図鑑を開くと、索引で「マンガース」を探して表示されているページを確認し、そのページを開いて「マンガースです。」と自信をもって教えてくれました。その一連の動きに、とても驚きました。

この子は糸魚川小学校の図書館で司書の先生から、図鑑の索引の使い方を教えてもらったのだそうです。その子に応じた学びの機会の確保の大切さを改めて感じました。